

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	進学	2	古賀・箕輪・西澤・二瓶
教科書	数研出版『論理国語』				
副教材	①『論理国語準拠ワーク』(数研出版) ②『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500三訂版』(いいずな書店) ③『評論速読トレーニング2000』(数研出版) ④『現代文単語』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身につけていること等、語彙力の確認。 ・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解・推論)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組みノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① (50点)	漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)			
	観点② (50点)	演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)			
	観点③ (20点)	(1)授業姿勢(5点) (2)提出物(5点) (3)漢字プレテスト(5点) (4)1学期G.W.明けテスト・2学期ビブリオバトル(5点)			
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・適宜漢字の小テストを行う。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	③は量が多いので、毎日小さな時間を見つけて書いて覚えること。 ①②は定期考査に向けて計画的に勉強すること。④はG.W.までに論理分野は全て終了するが、英単語同様に定期的に覚えなおすこと。			
	学習の目安時間・分量	①週に1~2回。論理国語の授業日などと決めて取り組むとよい。②毎日10分程度。③週末などに力試しとして取り組む。正解でも解説を読んで本文に記入し、p.2の「学習記録シート」にも記録していく。④寝る前に布団の中などで。			
	学習状況の確認方法	①②③定期考査に出題する。 ①は単元毎か考査後、担当者の指示に従って提出。④は期末考査後に提出。			
	成績評価との関係	①②③は定期考査の内容は観点①・観点②に入れる。 ④の提出物類は観点③に入れる。④はG.W.明けテストとして観点③に入れる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	ビブリオバトルを2学期末に実施				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	【G.W.明けテスト範囲】 ②p.130-p.137/ p.172-p.179 読み / ④p.146-p.209 第3章全部	【副教材③について】*授業開始後に実施。初回:解答→次回:解説
		(1)夏目漱石「現代日本の開化」	
	5	(2)岡真理「『文化が違う』とは何を意味するのか?」	【中間考査】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ②p.140-p.155 重要語C書き取り①~⑧ ③p.4-p.11 《1》-《4》
		(3)隠岐さや香「学問の政治性」	
	6	(4)松田雄馬「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	
		【期末考査】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ②p.156-p.171 重要語C書き取り⑨~⑯ ③p.12-p.19 《5》-《8》	
	【夏期休暇課題】スケールテストに向けて ②p.195まで全て(未習p.184-p.195 第3章 似形・同音・同訓) ③p.36-p.51 《17》-《24》		
2	9	*ビブリオバトルに向けての選書 (5)藤田省三「『安楽』への全体主義」	【中間考査】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ②p.244-p.261 第5章 慣用句①~⑨ ③p.20-p.27 《9》-《12》
		(6)丸山真男 「『である』ことと『する』こと」 *ビブリオバトル実施	
	10	【学年末考査】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ②p.262-p.279 第5章 慣用句⑩~⑫ 和語①~⑥ ③p.28-p.35 《13》-《16》	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学III	進学理系	4	黒滝
教科書	数研出版 最新数学III				
副教材	数研出版 3ROUND数学IIIC				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 数学における基本的な概念や性質（極限、微分、積分）を、その成り立ちや原理と共に体系的に理解している。また、計算技法（極限・微分・積分等）を習熟し、それらを問題の状況に応じて正確かつ適切に活用することができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 基礎的な原理を根拠として、公式や性質を自ら論理的に導き出す（再構成する）力。既習の数学的プロセスを抽象化して捉え、初見の事象や未知の問題に対して、どの原理を適用すべきかを判断し、解決に向けて論理を構築・表現する力。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学的原理や論理の流れを深く理解しようと、多角的に検証しようとする姿勢。解決の糸口が見えない問題に対しても、既習の知識を総動員して仮説を立て、粘り強く試行錯誤（アプローチ）を繰り返しながら、自身の学習過程を振り返り改善しようとする態度。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書や3ROUNDのA問題レベルから50点分出題。				
	観点② 教科書や3ROUNDのB問題レベルから50点分出題。				
	観点③ 小テストや課題の提出状況を踏まえ評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	数学IIIは高校数学の集大成である。そのため、これまでに学習した数学IAIIBの内容が随所に現れる。事前に各自が復習をしておくことが望ましい。「数学IIIが難しい」と感じる原因の1つに既習分野の抜け漏れがあることは否めない。授業は教科書、3ROUNDに書かれていることを中心に進める。3ROUNDの例題、可能ならば「応用」にも触れたいと考える。数学IIIは計算のハードルが高く、そこで躓く生徒が少なくない。したがって、小テストを活用しながら計算力の定着を図る。必要に応じて再テストも行う。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った関連問題を提示するので、3ROUNDなどを用いてその日の授業で扱った内容を復習してほしい。			
	学習の目安時間・分量	1回の授業につき復習の時間が90分程度かかるとして、週6時間～7時間程度。とにかく、計算問題を重視し、早期理解、反復練習（正確性とスピード）が重要である。			
	学習状況の確認方法	小テストの結果や課題の取り組みによって確認する。			
	成績評価との関係	観点③の成績の一部として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	「数学ガール」シリーズは数学に関する様々な事柄についてまとまっている書籍なので、読んでみるとよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	最新数学III 3ROUND数学IIIC ノート	第1章 関数
	5		第2章 極限
	6		第3章 微分法とその応用
	7		
2	9	最新数学III 3ROUND数学IIIC ノート	第4章 積分法とその応用
	10		
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学III	進学理系β	4	屋名池
教科書	数研出版 最新数学B・数研出版 最新数学II				
副教材	3ROUND数学II+B その他プリントまたは参考書（のちに提示します）				
評価基準	観点① 知識・技能 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。また、スケールテストでCランクに達する程度の問題、入試問題の基本事項を確実に解けるような力をつける。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。また、スケールテストのBランク以上に達する程度の問題、入試問題の応用問題に手を付けられるような力をつける。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、またはそれに類する問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、およびそれに類する問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	1学期は数学B「統計的な推測」を扱い、終わり次第スケールテスト対策を行います。2学期は数学II「積分」「図形と方程式」、数学B「数列」「ベクトル」をメインに数学IIBの復習を行います。特に2学期は扱う単元を変更する場合もじゅうぶんに考えられます。また、入試や進学先で数学IIBが必要ない生徒も少なからず出てくることも考えられますが、その点は割り切って数学の学習に真摯に取り組んでください。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業で扱った内容をその日のうちに復習することを推奨する。			
	学習の目安時間・分量	学習内容を十分に理解できているのであれば時間は問わない。			
	学習状況の確認方法	小テストを行う可能性がある。			
	成績評価との関係	日頃の取り組みが定期考査の結果に直結する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要に応じて、参考書を探し学習に利用してください。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	最新数学B	統計的な推測
	5		
	6		
2	7		スケールテスト
	9	最新数学IIおよびB プリント	受験に必要な事項を扱う
	10		
3	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	進学理系	2	和久井
教科書	数研出版 最新数学C				
副教材	3ROUND 数学III+C				
評価基準	観点① 知識・技能 複素数平面に関する基本的な知識、2次曲線の基本的な知識、確率統計の基本的な知識を授業と反復演習を通して定着させる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ①で述べた基本的な知識が拠り所とする原理や論理を理解し、未知の問題に応用できる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ①②で述べた力を涵養するために、具体例を自分自身で挙げるができる。自力で解決することが難しい問題を友人との協議を通して解決することができる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 複素数平面や2次曲線、確率統計の基本的な内容についてミスなく対応する。				
	観点② ①の内容をベースに、どのように論理を組み立てているのかを把握して対応できるように応用的な問題に取り組む。				
	観点③ 小テストや課題の提出状況を踏まえ評価する。				
授業のねらい・進め方・注意点	・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。 ・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいか間違っていたのか確認し、振り返りをする。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけでなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	基礎線形代数講座：線形代数 回転の表現		セガ開発部		

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		教科書および3ROUND	複素数平面 (適宜ベクトルの復習)
		教科書および3ROUND	二次曲線
2		教科書および3ROUND	二次曲線(続き)
		教科書および3ROUND	確率統計
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	進学理系β	2	宮山
教科書	数研出版 数学Ⅰ・数研出版 数学A				
副教材	3TRIAL数学Ⅰ+A その他プリント				
評価基準	観点① 知識・技能 数学Ⅰ・Aで学んだ内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 数学Ⅰ...命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学A...図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、3TRIALのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、3TRIALのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 20点				
授業のねらい・進め方・注意点	1学期はスケールテスト対策として数学Ⅰ・数学Aの復習を行います。 2学期は数学Ⅰ・数学Aの応用問題・入試問題に取り組めます。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	数学Ⅰ	スケールテスト対策 毎回の授業はプリント教材を使用する。
	5		
	6	数学A	スケールテスト対策 毎回の授業はプリント教材を使用する。
2	9	数学Ⅰ・数学A	応用問題演習・入試問題演習 毎回の授業はプリント教材を使用する。
	10		
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理	進学理系	3	榎本
教科書	物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版				
副教材	セミナー物理基礎+物理（新課程版） 第一学習社				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。</p> <p>公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。</p> <p>また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で取り扱った基本的な問題・語句等の知識問題				
	観点② 応用的な問題・初見の問題				
	観点③ 提出物・レポート・普段の取り組み・小テスト等				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということをも前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。ただし、ただ問題の解法を教える授業ではありません。物理は一見たくさんの内容が詰まっているように感じられますが、それらは実は非常に少ないいくつかの原理の組み合わせから成っています。そのような物理の「本質」を発見させる授業を心がけます。そのために実験や演示を行いますので、それを通じて、「なぜ」と考えながら授業を受けて下さい。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業中に扱った問題と配布する演習問題を進める。 教科書や授業資料を振り返る。			
	学習の目安時間・分量	考查前までに、その範囲の問題を解く。 授業で取り扱った内容はその日のうちに取り組むのが望ましい。			
	学習状況の確認方法	考查期間の指定した日に理科室1に提出			
	成績評価との関係	観点③に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	物理2章2節 音 物理2章3節光	音の伝わり方とドップラー効果 光の伝わり方とその性質 光の回折と干渉
	5	物理基礎3章1節	レンズ 静電気
	6	物理基礎4章1節 電流 物理3章1節 電荷と電場	静電気と電流 オームの法則、電気とエネルギー 電場中の導体
2	9	物理3章2節 電流 物理1章3節	コンデンサー 電気回路と直流回路 等速円運動
	10	円運動と単振動	慣性力と単振動
	11	物理1章4節万有引力 物理3章3節 磁場と電流	ケプラーの法則と万有引力 磁場、電流の作る磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導, 電気振動と共振
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学	進学理系	3	石田・筒井
教科書	化学academia 実教出版				
副教材	アクセスノート化学 ニューグローバル化学				
評価基準	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ・教科書の本文や参考、演習に記載された語句の意味を、どの程度理解しているか。 ・副教材の演習問題に習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。				
	観点② ・教科書の論述問題などの問いに対して、意見を述べられるかどうか。 ・副教材の演習問題への習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。				
	観点③ ・ノートや振り返りの中身に表れる意欲 ・実験レポート、調べ学習レポート等提出物の中身に表れる関心				
授業のねらい・進め方・注意点	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容と進め方	提示された問題集を最低1周、可能な限り2周以上行うこと。			
	学習の目安時間・分量	各授業ごとに20～30分程度の復習を行う。各考查前は時間ではなく、問題集を何回やるか決める。			
	学習状況の確認方法	各考查で授業担当者に課題を提出をする。			
	成績評価との関係	観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	・高校で教わりなかった化学(シリーズ大人のための科学) 渡辺正(著) ・亀田講義ナマ中継有機化学 亀田和久(著)				

授業の計画

※ 授業の進度により、変更することがあります

学期	月	教材	内容
1	4・5	教科書	有機化合物とその構造 脂肪族炭化水素 酸素を含む脂肪族炭化水素 (アルコール・エーテル)
	5・6・7	教科書	酸素を含む脂肪族炭化水素 (アルデヒド・ケトン・カルボン酸・エステル) 油脂・セッケン
2	9・10	教科書	芳香族炭化水素 (ベンゼン～混合物の分離)
	11・12	教科書	高分子化合物 (天然高分子・合成高分子)

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	生物	進学理系	3	水庭
教科書	「生物」第一学習社				
副教材	「スクエア最新図説生物」第一学習社 「セミナーノート生物」第一学習社				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習内容に関するレポートを作成する。 必要に応じて小テストを実施する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 用語の意味を問うような、単純な知識問題が大部分となる。				
	観点② 文脈を正しく読み解く必要があるような、考察を要する問題が大部分となる。				
	観点③ レポート・小テストの内容を元に判断する。				
授業のねらい・進め方・注意点	学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。 授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。 進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。				
家庭学習	学習内容と進め方	提示された問題集を最低1周、可能な限り2周以上、手を動かして解く。			
	学習の目安時間・分量	各授業ごとに20~30分程度の復習を推奨。各考査前は時間ではなく、問題集を繰り返し取り組む。			
	学習状況の確認方法	各考査で授業担当者に課題を提出をする。			
	成績評価との関係	観点③として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 図説	第6章 遺伝子の発現調節と発生
	5		第7章 遺伝子を扱う技術とその応用
	6		第8章 動物の反応と行動
	7		
2	9		第9章 植物の成長と環境応答
	10		第10章 生態系のしくみと人間の関わり
	11		
	12		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	進学理系	3	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点を評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点を評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点を評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1			○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)
	4		○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7		【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
3	12		【柔道】 ・実技指導、立技 ※実技テストも行う。
	1		
3	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	実用書道	3年進学	1	村田萌 佐藤敦子
教科書	『きれいな文字の書き方』（書き込み式練習帳）宮澤正明 二玄社				
副教材	・硬筆筆記具・筆ペン ・練習用ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 ○用具・用材に関する知識を身につけ、その扱い方を理解する。 ○書道の歴史を通して現代の実用に適する技術とは何かを学習する。 ○字形の構成・用筆法を学習し、技術を身につける。 ○硬筆及び筆ペンの技術の違いを学習する。 ○楷書及び行書の技術の違いを学習する。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○習得した技術を生かし応用して書くことができる。 ○文化祭の機会を有効に活用し、作品発表をする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ○授業に積極的に取り組もうとしているかどうか。 ○上手くなろうという努力をしているかどうか。				
考查					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階 1～3学期: 観点①50% + 観点②20% + 観点③ 30%				
テスト・評価の内訳	観点① ○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。				
	観点② ○授業内で得た知識・技術を最大限活用できたか。上達に向けて努力したか。				
授業のねらい・進め方・注意点	観点③ ○テキストを活用し、自主的に学ぼうという姿勢がみられるかどうか。 ○提出状況。相互評価等の取り組み。				
	書道の実用に適う技術の習得とともに、丁寧な運筆による安定した心情を養うこと、さらに手書き文字特有の美を享受することで鑑賞眼も育てる。				
家庭学習	学習内容と進め方	テキストの提出に向けて、家庭学習で補う。筆記テストには、家庭学習をしてから臨む。			
	学習の目安時間・分量	週に30分から1時間			
	学習状況の確認方法	テキスト、ノートをそれぞれ学期に2回提出し、評価を付ける。			
	成績評価との関係	観点別評価に準ずる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	「常用漢字書き方字典」等を参考にする。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	ガイダンス 【楷書の法則】 テキスト50～57頁 【楷書の法則】部分の組み立て テキスト50～57頁	実用書道の意義と持ち物等の確認 ・線対象に近い文字の整え ・偏と旁
	5	【楷書の法則】部分の組み立て テキスト62、63頁 【楷書の法則】内外の組み立て テキスト66、67頁 【楷書の法則】概形 テキスト69、82、83頁	・冠と脚
	6	【楷書・筆ペン】 テキスト46、47頁 【楷書・筆ペン】 テキスト104～107頁 【学園祭展示用の作品制作】	○テスト実施「楷書」 二字、三字または四字熟語を決めて用紙に清
2	9	【ひらがなの法則】 テキストひらがな部分 【漢字とひらがなの調和】 テキスト85、97頁 【履歴書を書く】	・字母を理解し、流れと骨格を意識する。 ○テスト実施「ひらがな」
	10	【行書の法則】 【行書・筆ペン練習】 テキスト76～79頁 【のし袋を書く】 テキスト150頁	※筆ペンを使用
	11	【手紙文の練習】 【手紙を書く】 【筆ペンを用いた漢字かな交じりの書】 【リレー書道】	・手紙、はがきの書き方を学ぶ ・相互評価
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	English Communication III	進学	4	太田・久保田・伊藤・草地
教科書	FLEX III English Communication III(増進堂)				
副教材	ターゲット1400(旺文社) レシピー(POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現をさせる。 初見長文を時間内に正確に読める。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業中に音声活動やペアワーク活動に参加している。 授業の復習を行っており、授業で扱った表現を口頭でアウトプットすることができる。 レシピー等の課題に取り組むことができる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① FLEX: 空所補充、部分英訳 英単語ターゲット1400: 英文の空所補充				
	観点② FLEX: 整序問題、和訳、内容説明、文法応用問題、初見問題				
	観点③ 音読テスト(グルグルテスト)、音読課題(レシピー)への取り組み度 授業の活動への参加意欲				
授業のねらい・進め方・注意点	・予習は基本的に不要、復習を重点的に行う。その際、口頭でのアウトプットに重点を置くこと。 ・授業の流れは、単語学習→リスニング→リーディング→解説→音読(知識の定着)→音声でのアウトプット(2年次とほぼ同様)				
家庭学習	学習内容と進め方	授業であつかった内容の復習を以下の手順で行う。①Quick Responseで単語の復習を行う。日本語だけ見て、英語に直せることが目標。②Chunking Practiceで扱ったフレーズを、口頭、筆記で日本語から英語に直せるようにする。③授業で扱った本文を通して音読し、授業内容を復習する。			
	学習の目安時間・分量	30分~1時間、時間以上に毎日続けて、何度も復習することが重要です。			
	学習状況の確認方法	①Quick Responseで日本語だけ見て、口頭・筆記どちらともで英単語に直す。②Chunking Practiceで扱ったフレーズを、口頭、筆記で日本語から英語に直す。③授業で扱った本文を意味を込めながらつかえずに音読することができる、本文をリスニングを聞いて意味が鮮明にとれる。			
	成績評価との関係	①②によって、FLEXから出題される問題の知識を身につけることができる。③によって、②Chunking Practice以外で扱った本文の知識を身につけることができ、文法の応用問題も解ける。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	辞書の活用が可能。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEX III	L1 Potential Uses of Optical Illusions L2 Expanding World Population (L3 What makes a Hit Song?) ※進度によってはカット
	5		中間考査
	6		L4 Visas for Life L5 How Have Butterflies Survived?
2	7		
	9		L6 Mr. Price Meets Jakuchū L7 Sustainable Lifestyle of the Edo
	10		中間考査
	11		L8 Why Do We Lie? L9 In Defense of Zoos
12	期末考査		
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現III	進学文理	3	田代・増村・石井・伊藤・草地
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)				
副教材	五訂版 英語演習ノート GREEN版 -英文法の定着- (数研出版) チャンクで積み上げ英作文 Standard (三省堂) レシピー (POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 チャンクのかたまりをとらえることができる。基本的な英文法を理解し、副教材で扱った知識、表現を覚えている。語彙を含めた正しい表現を選択することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 構文を理解できている。副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 英検Writingの形式に合わせて意見論述ができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピーのWriting課題に積極的に取り組んでいる。 授業でペアワークに積極的に取り組み、発言、参加をする。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 並べ替え・穴埋め選択 (15点) 4択、書き換え、英訳・和訳、並べ替え、空所補充 (35点)				
	観点② テキストアレンジ問題 (4択、書き換え、並べ替え、空所補充) 30点 英検Writing20点				
	観点③ レシピー英検Writing課題 (8題×2=16点) ペアワークその他4点				
授業のねらい・進め方・注意点	高校英文法の習得に向けて、「英語演習ノートGREEN」で基礎的な文法項目の反復演習を行う。1コマ1ページを目安に「チャンクで積み上げ英作文」を最初の10分で解き語彙を含めたチャンクのかたまりを意識して読む習慣を身に着ける。5/29 (金) に全員受験する英検2級に向けて、Writing (意見論述・要約) のレシピー課題に取り組む。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業の予習は不要だが、これまでの知識を総動員して授業中に自力で悩みながらも解いてみる姿勢が大切。そしてその日のうちに復習としてもう一度解くこと。解答の根拠を常に考えながら解いて、正しい解答を導けるようにする。			
	学習の目安時間・分量	授業があった日は、同じ問題を最低1回は解くこと。正解がわからない問題をそのままにしないこと。また、単元が終わる毎に、その問題を全て解くこと。			
	学習状況の確認方法	考査前に全演習で試験範囲の全ての問題を再度演習する。その演習の正答率で、日頃の学習の状況を確認する。			
	成績評価との関係	以上ができていれば観点①は満点となる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	レシピーログイン GREEN チャンクPart1ドリル1~6	3.時制 6.受動態 4.完了形 7.不定詞 I 5.助動詞 8.不定詞 II 英検Writing (意見論述・要約)
	5	レシピー課題 5/21 (木) ~25 (月)	
	6 7	GREEN チャンクPart1ドリル7~12 レシピー課題 7/4 (土) ~8 (水)	9.不定詞III 13.比較 I 10.動名詞 14.比較 II 11.分詞 12.不定詞・動名詞・分詞 英検Writing (意見論述・要約)
2	9	GREEN チャンクPart2ドリル13~18	15.関係代名詞 I 16.関係代名詞 II 17.関係副詞 18.仮定法 19.時制の一致・話法 英検Writing (意見論述・要約)
	10	レシピー課題 10/20 (火) ~23 (金)	
	11 12	GREEN チャンクPart2ドリル19~27 レシピー課題 12/1 (火) ~4 (金)	21.代名詞 24.接続詞 I 25.接続詞 II 英検Writing (意見論述・要約)
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習I	進学文・理	2	山崎・井原・東牧原・猪瀬・太田・藤本
教科書	CROSSBEAM				
副教材	レシピー（アプリ）				
評価基準	観点① 知識・技能 授業内で扱った長文及び文法の問題を解くことができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 授業で扱った知識を用いて、類題を解くことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピーで配信された課題に積極的に取り組んでいる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で扱った問題を通し、文法や長文読解を理解し読解することができる				
	観点② 授業で扱った問題を通し、文法や長文読解を理解し応用問題を読解することができる				
授業のねらい・進め方・注意点	観点③ レシピーアプリ内で配信された課題に期限内に取り組み提出できている その他提出物を期限内に仕上げ提出できている				
	授業ではCROSSBEAMのテキストを用いて文法・長文読解・図解・リスニング問題の演習を行う。初見問題に慣れることも学習目的の一つであるためこの授業では予習は不要だが、繰り返し復習をし、4技能を身に付けてほしい。レシピーアプリには主に文章読解とスピーキング練習の問題が配信される。授業と復習、そしてレシピーの課題に取り組むことで英語4技能の向上を目的とする。				
家庭学習	学習内容と進め方	レシピーアプリ内に配信される課題に取り組む。			
	学習の目安時間・分量	1課題につき10～15分程度			
	学習状況の確認方法	アプリでの学習履歴と提出状況を確認する。			
	成績評価との関係	観点③の評価に含まれる。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	CROSSBEAM	Chapter 1~3
	5	中間考査	
	6	CROSSBEAM	Chapter 4~6
	7	期末考査	
8	(夏季課題)	Chapter7~9	
2	9	CROSSBEAM	Chapter10~12
	10	中間考査	
	11	CROSSBEAM	Chapter13~15
	12	期末考査	
3			

2026年度

学年	教科	科目	単位	担当者
3	外国語	English Conversation	1	Perry・山浦・石井・伊藤・鳥海
The aim of this Course	The aim of this course is for students to get used to speaking by producing as much output as possible and practice for Eiken.			
Overview of the Course	<p>Using a sample card, students practice doing the whole exam in pairs, without any input from teachers. This allows students to try answer using the language skills they currently have and teaches them to actively produce language to complete a task.</p> <p>Break exam up into sections, using each subsequent lesson to focus on 1 or 2 sections at a time to allow students enough time to become familiar with each section.</p> <p>Elicit answers from students and highlight any “exceptional” responses.</p> <p>Provide model answers to students with explanations.</p> <p>Students can then compare their answers with model to notice what changes they need to make to improve.</p> <p>Students practice in pairs (and new pairs) to apply what they have learned.</p>			
Consideration	<p>In preparation for the exam, it is important to give students as much time as possible to practice speaking.</p> <p>Pairwork is probably the most efficient use of time.</p> <p>Teacher speaking time should be minimized and done to introduce tasks, explain important points, or give advice and feedback.</p>			
Tests & Exams	In-Class test			
Textbooks	Digital materials sent through Google Classroom			
Supplementary Materials	iPad			

授業の計画

Term	Month	Schedules	Contents
1	4		Eiken Practice Grade pre 2nd
	5	Mid term exams	Eiken Practice Grade 2nd
	6		
	7	Final Exams	Conversation practice with certain topics
2	9	Mid Term Exams	Conversation practice with certain topics
	10		
	11		
	12	Final Exams	
3	1	No class	

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材 教具	<p>□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。</p>
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <p>①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。</p>	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>